



共に伝えられる

司祭 オーガスチン 與賀田 光 嗣

宣教とは、マタイ福音書の最後(マタイ28・18〜20)にあるように、「出て行って」「弟子をつくる」ことに他なりません。教会の外でもクリスチャンとして生きて、それを伝えるということです。伝えるという

ことなしにクリスト教信仰は成り立ちません。例えば、あなたが旅に出て、美味しいものを食べる。それを大切な人のため、お土産とするでしょう。お土産を誰かが「美味しいね」といつて食べてくれた時、初めて旅の喜びは完成するのです。それが人生の根幹の信仰であればなおさらです。

といいますが、1990年代より続く宗教不信の日本で、それ

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2014年
10月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

はハードルが高いことでしょう。街で出会った人に「私はクリスチャンです」と堂々と名乗れるのは、牧師であったり、ミッシヨン系の教師であったり、怪しめない肩書きがないと難しいのではないのでしょうか。人はそれぞれ与えられた特質が違いますから、全員が同じことをする必要はないでしょう。

* * *

そこで、高知聖パウロ教会で実施しているのは、毎週木曜日午後2時から午後11時まで、会館を開放し、来られた人たちがセルフで飲食を行うオープンセルフカフェ(週平均16名)という方式です。主イエスは常に不特定多数の方と飲食を共にされました。その在り方に倣う神戸ミッション・トゥ・シーフエアラーズの働きからは学ぶものが多いと感じます。

カフェの利点として、①飲食の準備は参加者が行うため、教会の負担が少ない。②時間中の出入りが自由であるため、参

加者の心理的負担が少ない。③信徒、ことに教会生活に魅力ないし居場所を見出しにくい若い信徒達が参加しやすい。が挙げられます。ことに③は重要です。カフェは未信徒へのためだけにあるのでなく、既存信徒に居場所を与え、自覚、成長を促します。「何故あなたはクリスチャンか」「○○だからです」という信仰告白は教会外では難しくとも、教会内ならば自然と行えるからです。

また、カフェの時間で、午後4時から午後6時までパウロゼミ(週平均8名)と称して、学びの時間があります。毎週、誰かが自分の興味のある本をレジュメにし発表します。私は毎週レジュメを作り、参加者の発表がない時には代わりに、諸宗教・諸文化の話をします。共に真面目なことも話し合い、飲食を共にし、たわいのない話もする。この方式は英国聖公会から始まり、日本ではカトリックが主に行っているアルファ・コース(学びと食事の時間を持つキリスト教再入門講座 <http://www.alpha.org>)を参考にしています。

参加者の方々からは忌憚なき質問が飛び交います。教会の経済を問われ、赤字ですと答えたところ、「献金箱を作りまし

う」と発案され、募金箱のようなものを設置したところ、毎月2万円超の献金があります。これは未信徒・信徒にとって、喜びがあるから献金したい、伝えたい、という献金の意味を知る良い機会となっています。

自然と礼拝に出席される方もいます。直接会話をせずとも、礼拝中の信徒の祈りの姿こそが、最も大切な宣教の要石です。五月蠅い聖堂は失望しか生みません。礼拝10分前の完全沈黙、黙想の徹底が心がけられるようになりました。

* * *

このように高知での取り組みは、①教会とは不特定多数の交わりの場所である(こういった場所を多くの人は求めていきます)。②離れていた若い世代が主にある交わりの喜びを知る。③カフェに参加されない既存信徒も祈りの意味を深める。とまとめられます。そして、④祈る人の姿が、家庭で、職場で、隣り人の中で、存在感を増す、生きた象徴となることを信じています。

主は全ての人を用いて、主にある喜び(福音)を伝えようとされている。この主の御姿に励まされながら、歩むことができればと祈り願う次第です。

(高知聖パウロ教会牧師)

広島平和礼拝二〇一四

戦争の愚かさと
平和の尊さ

フランスス 栗栖 啓一

今年の広島平和礼拝2014は、雨の降り続く中で始まりました。初日の5日は、碑巡りから始まり、その後、昼から高村是懿(よしあつ)氏の「原水爆と平和」の講演がありました。核兵器等の違法、ウエストミンスター大聖堂でのスピーチ等で活躍され、現在弁護士をされている方です。高村氏は被爆者ではありませんが、戦争体験、朝鮮からの引き揚げ、そして、戦後の苦しみなどを話されました。内容は戦争体験、憲法9条、核兵器廃絶運動、平和の4つの議題で話をされました。私が一番興味を持った話は平和についてでした。今、イスラエル「ガザ地区」で紛争が起こっています。

多くの人、特に子供達も犠牲になっています。我が国は、第2次大戦の後、戦争の放棄という憲法が出来、それを69年間守ってきた国です。高村氏の話は、自分も含めて考え方が間違っているのか、正しいのか、答えを出せと問いただしているように聞こえました。平和、それは毎日の問題もなく生活することなのか、私自身もすぐに答え

は見出せません。一生の問題になるかもしれません。講演後は、各グループに分かれて分かち合いが行われ、その後カトリックと合同の祈りのついで、供養塔前からカトリック世界平和記念聖堂までの行進、そしてカトリック世界平和記念聖堂で平和祈願ミサが捧げられて初日を終えました。



2日目の6日は前夜からの雨が明け方には豪雨となり、広島南部に大雨、洪水、警報が出ましたが、幸いにも「広島原爆逝去者記念聖餐式」が始まる頃には小雨に変わりました。司式・中村豊神戸教区主教、補式・武藤謙一九州教区主教、上原榮正沖縄教区主教で行われ、8時15分に全員で黙祷をし、原爆犠牲者の魂の平安を祈りました。聖

書朗読、代祷は各関係学校からの学生が担当して下さいました。説教は上原主教が当日の福音書ルカ伝9章28節を取り上げられ、私たちも心に与えられた光を輝かせていくことが、主の平和を世界に広げていくことになるのではと説かれました。

来年は、原爆投下から70年となります。私も昨年、今年と、裏方のお手伝いをしました。来年は今年以上に頑張らなければと思っています。

(広島平和礼拝実行委員)

第51回
中高生大会を
終えて

ジュリアン 小林 真綾

8月12日から15日までの4日間、呉市大空山青年の家で第51回中高生大会が行われました。今年は70名を超える参加者が集まり充実した時間を過ごすことができました。

初日は初参加の子が多かったこともあり、少し緊張した雰囲気で開催が始まり、自己紹介、班別親睦会を終え、BBQを行いました。その後のレクリエーションでゲームなどをしていく中、参加者の笑顔も増え、良い親睦ができました。

2日目の午前中はウォークラリーを行い、午後からは例年がないプログラムを2つ取り入れました。1つ目は「シェアリング」です。これは班や学年という縛りを取り払い、いろいろな人と意見交換をしてもらう為のものです。「中高生大会」というテーマで話し合い、大会の好きなところや何年も参加し続ける理由など、参加者みんなが中高生大会についてどう思っているのか、改めて考えてもらおうと思います、このようなプログラムを入れました。2つ目は「クッキングコンテスト」です。これは教役者、神学生の中から4人に料理の腕を振るってもらい、みんなの投票で優勝を決めるというプログラムです。本格的な料理に中高生も驚きながらおいしく頂きました。

3日目は恒例になっている運動会、午後にはディスカッションやテゼを行い、待ちに待った夜。スタンツと肝試しをする予定が、突然の雷雨によって予定通りに始めることができませんでした。しかし、教役者、CSさんたちのおかげで、すでに外に設置してあったものをすべて撤去し、宿泊していた施設が瞬く間に肝試し会場へと変わり、室内で実施することができました。

最終日は閉会礼拝を終え、引き継ぎ会で来年の大会長の藤井

漱之介君(神戸聖ヨハネ教会)に大会旗を渡し、無事に今大会を終えることができました。私にとって現役最後でもある今大会で、大会長ができたことを本当に嬉しく思います。

最後に1年間支えてくれたチャプレン、役員、そして参加してくれた皆さん、本当にありがとうございました。今大会が100回大会に向けてはばたいていくきっかけとなり、これからもずっと続いて行くことを願っています。

(大会長、広島復活教会)



青年交流会

9年ぶりの

ワークキャンプ

ガブリエラ 芳我 翼

8月24日(日)から27日(水)まで、徳島インマヌエル教会で青年交流会ワークキャンプが行われました。

今回は9年ぶりのワークキャンプということで徳島インマヌエル教会の墓地と周辺の竹林の清掃を行いました。参加者は青年9人と教役者、またワークの



時には徳島インマヌエル教会の信徒の方々と協力してくださいました。ワークは2日目からスタートしましたが、先の台風の影響で竹林は竹と竹が交錯していたり、倒れた竹や腐った竹が山積みになっていたりと、どこから手をつけて良いのか分からない状態でした。実際、倒れていた竹や切り倒した竹を短く切り、それを運ぶという作業の繰り返しで、私は想像以上の労働と疲労に、あと2日間も頑張れるのか不安でいっぱいでした。しかし、青年達や教役者のみなさんと心一つにしてワークに取り組み、冗談を言い合ったり励まし合ったりしながら働くことはとても楽しく、全員が頑張っている姿を見ると私もやる気が湧いてきて、気づけば最終日を迎えていました。

ワークを通して私が見たものは今まで感じたことのない充実感と達成感でした。私にとっては初めての青年交流会、ワークキャンプだったので最初はとても緊張していましたが、次第に雰囲気にも慣れ、青年達の輪の中にとけこむことができました。朝と夜の礼拝で共に祈りをささげ、会話をし、



なにげない日常生活であっても、ワークキャンプの間だけは有意義な時間が過ぎていくように思いました。2日目の夕食では墓地の竹を持って帰って流しそうめんをし、3日目の夕食では徳島インマヌエル教会の中高生たちも混じって一緒に楽しくBBQをしました。

今回の青年交流会はワークを取り入れた、とてもハードな4日間でしたが、誰ひとり大きな事故や怪我をすることなく、無事にワークキャンプを終えることができました。そして、参加した青年達全員の絆も、最初に比べるとより強く深まったと思います。今回経験したことをまた次のワークキャンプに活かしていけたら良いと思います。

(姫路顕栄教会)

召命黙想会に

参加して

パウロ 歳實 勲

今年度の召命黙想会は、8月26日(火)から28日(木)までの三日間、神戸聖ペテロ教会と聖ヨハネ病院修道会において行われました。プログラムは、木村幸夫司祭(大阪教区退職)による講話と黙想指導、中村豊主教による講話でした。

木村司祭は、ご自分の司祭としての生き方と信念について、「こだわり司祭」とか、「こわい司祭であった」とか呼ばれていた過去を振り返りながら静かに語られた。それは、「神様の御心に反すると思ったことはゆるすことがなかった」という信念に基づくものでした。つまり、聖職に召された者として、「伝えるべきこと」、「守るべきこと」、「をしつかりとした態度で貫く」ということでした。このことは、私自身、神学を学ぶことへの査証でもあり、召命感の確認につながることであると思いました。そして、共に祈り、生活し、神学を学ぶということは、神学校での日常生活そのものです。この黙想会を通じて、私はこのような生活の中から、確固たる自らの神学を学ぶことが大変重要であると考えました。



木村 幸夫 司祭

(神戸教区神学生)

聖歌研究会 その三

ノエル 三木亜佐子

徳島聖テモテ教会でコツコツと続けた聖歌マラソンは、4年を経て今年1月、全580曲を終えました。現在は2週目に入っています。

「この歌は皆さん歌えますよね？」

一同、(???)
「いや、この歌、さっき礼拝で歌ったところ！」

なんてやりとりも繰り返されていますが(笑)、少しずつ耳に残る歌が増えていけばよいと思います。

「最近の歌にはついていけない」という声は良く聞かれます。反対に若者は「古い歌は意味が分からない言葉だらけで馴染め



ない」と思っているかもしれません。そこは互いに思いを共有しながら歩み寄ることが必要だと思えますし、繰り返し歌うことで感じ方が変わってくることもあるでしょう。

聖歌が礼拝をより豊かにし、賛美と祈りそのものとなるようお願いしながら、私たちはこれから楽しく聖歌研究会を続けていきます。

最後に、参加者の一人から会への思いを寄せていただきましたので紹介します。

* * *

私の教会生活の中で聖歌集は4冊あります。その中で一番長く親しんだのは、祈禱書・詩篇と古今聖歌集が1冊になり、赤い表紙で、コンパクトで持ち易いものでした。それから、古今聖歌集増補版と試用版、そして現在の時代に沿って作られた今の聖歌集です。最初は、大きさと重さ、新しい曲に戸惑いました。

その様な中、2008年4月から2014年3月まで教会は無牧状態となりましたが、三木姉が講師となって聖歌研究会が始まりました。三木姉による美味しい手作りの昼食を頂いた後、曲の解説、詩曲情報、作者情報、聖歌集について詳しく教えて頂きました。1番から一曲ずつ曲を聴き、歌い、メモに感想を書きながら、自分勝手に、曲、詞、

歌を三段階でランク付けをしたリ、「アーメン」がついている曲は何曲あるかをチェックしたり、古今聖歌集との対比等々を学び、音楽に無知な私の疑問点について、何度同じ質問をして迷惑をかけても笑いながら応じていただきました。楽しい雰囲気の中で学びました。自分の葬送式の曲も選び準備する事が出来ました。本当に感謝です。

そして、2014年1月19日、聖歌集1冊全て終わりました。しかし参加できない時も多々あり、今もフォロワーの為、聖歌研究会は続いています。

私共は、5、8名の参加者ですが、この様な学び多い、素晴らしい会に他の教会の方々も多く一緒に来ていたら、どんなに良いかと思っています。

本当に心に響く聖歌が沢山あり、この恵みに深く感謝しています。

(アグネス 元木園恵)

鳩だより 《敬称略》

ご逝去

8月26日(火)

リベカ 後藤 眞知子

広島復活教会

8月29日(金)

エリザベツ

北中文化代

神戸聖ミカエル教会

教籍移動

7月27日(日)

ルカ 平山 昭彦
マリア 平山 耀子

京都聖三一教会より

神戸聖ヨハネ教会へ

徳島伝道区

◎徳島聖テモテ教会

8月24日(日)、主日礼拝を「パウロ古本正夫司祭逝去20周年、サラ古本初枝姉逝去10周年の記念聖餐式」として行い、礼拝後、ご夫妻のDVDを観ながら歓談の時を持った。参加者18名。

広島伝道区

◎広島復活教会

8月24日(日)、第4回映画会を開催。「時をかける少女」

8月24日(日)14時から、神戸聖ミカエル教会日曜学校主催で、幼児から小学生を対象にした夏のお楽しみ会が、同教会会場で開催された。プログラムは、カレー作り、中高生たちの司会によるスイカ割り、ペットボトル空気砲作り、夕の礼拝、花火大会などで、ともに楽しい時間を過ごすことができた。神戸伝道区の日曜学校の子供や保護者、教役者ら、総勢約50名が参加した。

神戸伝道区

◎神戸聖ミカエル教会

を上映した。外部からの10名を含め、22名で鑑賞した。同日夕方、ホームレスの人たちに炊き出しを行い、カツカレーを提供した。43名来会。この炊き出しも6年目に入った。

11月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2014年11月6日(木) 午前10:30

場所 神戸聖ミカエル大聖堂

司式 主教 中村 豊

説教 司祭 竹内 宗

11月の記念逝去教役者

1日	司祭	レイモンド	クリストファー
3日	司祭	パウロ	山本 早太
4日	司祭	ヴァイオレット	山辺 久吉
8日	宣教師	アンデレ	ハ イ ド
9日	司祭	モーセ	兄玉 正
13日	司祭	ルデヤ	木俣 茂世
17日	伝道師	ウィリアム	内田 歌子
17日	司祭	チッポラ	ハンコック
18日	伝道師	ヨハネ	末吉 信子
19日	司祭	パウロ	側垣 正己
20日	司祭	ジャネット	秋田 哲三
22日	伝道師	エイミ	塩原 以満
28日	宣教師		マッ キー
30日	宣教師		ボサンケット

逝去年月日不明の方々もお祈りします。